



日報のペーパーレス化

製造した数や在庫数を管理する日報を、従来は紙に記入して管理者がとりまとめてパソコンに入力していましたが、ペーパーレス化のためにタブレットを導入。先述の機械化とも合わせて従業員の負担軽減にもつながっています。

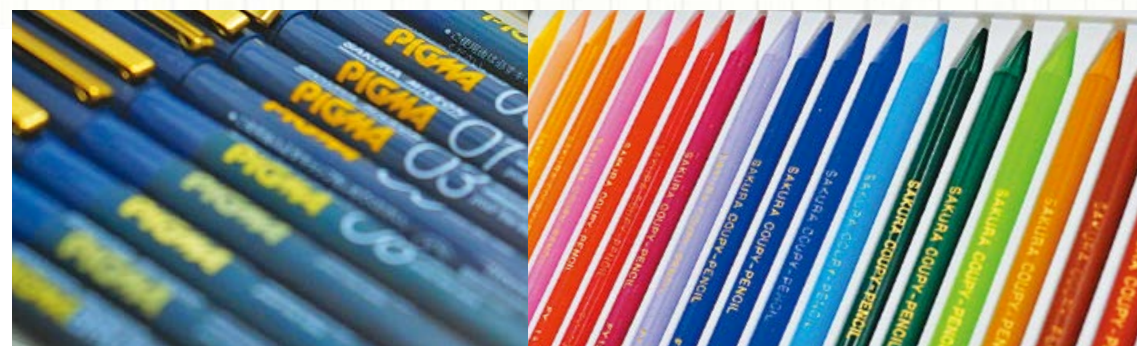


生産ラインへの部品等の運搬や完成品の移動はそれまで従業員の手で行われていました。しかし、昨年6月の組立工場の新設に当たり、自動無人搬送機を導入しました。これは倉庫からの資材移動などを自動で行うもので、あらかじめ製造数を設定しておくと夜間や朝に搬送機が必要

グループ企業内でいち早く新機材を導入



ココに注目!!



株式会社 サクラクレパス 鹿児島工場

まちのおしごと

やってみたい仕事が見える!



VOL. 15



株式会社 サクラクレパス 鹿児島工場

- 住所 鹿屋市吾平町麓 2834-1
- 電話 0994-58-6066
- 設立 昭和46年 ○代表者 久木山 元成
- 従業員数 155人(社員・パート等含む)
- 平均年齢 43歳 ○勤務時間 8時間
- 採用実績 31人(令和4年度)
- 福利厚生 各種保険(雇用、健康、厚生年金、労災)、通勤手当



▶企業紹介ムービー



なものを必要な量だけラインに準備してくれたり、完成品を倉庫に運んでくれたりするものです。また、組み立てや梱包なども機械化されており、生産性の向上を図っています。

一方で、弊社で生産されている製品は最終的に人間が使うもの。書き味などといった人でしか確認できない感覚もあるもので、一部の確認作業は人の手で行っています。

生産性や品質の向上、さら



▲床の線や二次元コードを読み取りながら、梱包された商品を昇降機で運ぶ搬送機

には従業員の働き方を考えるが、最終的には人の手でしっかりと確認を行い、品質の確保に努めています。

弊社は大阪府にある株式会社サクラクレパスのグループ会社として、昭和46年2月に吾平町に設立しました。当時の過疎対策として、旧吾平町から親会社へ熱心な企業誘致の働きかけがあり、従業員60人で操業を開始。高度経済成長期による人手不足と過疎地による雇用創出とがマッチして立地に至りました。

鹿児島県という立地から、輸送費や納期で不利な面もありますが、それを克服するために努力を重ねています。当初は大阪から材料や部品を輸送して鹿屋で組み立てを行っていましたが、部品工場の新設などにより一貫生産が可能になりました。現在弊社ではサインペンやボールペン、油性マーカーなどサクラクレパスの主力商品を製造。販売するペンの約8割が鹿屋で作られており、海外市場での需要増加と相まって同グループ内

でも重要な生産拠点となっています。

弊社は親会社の社是「企業は永遠である」という理念を堅持しており、企業活動による環境負荷を最小限に抑える規格の「ISO14001」や、品質マネジメントシステム「ISO9001」といった国際規格認証を取得。環境保全や顧客満足度の向上を図りながら、地元や近隣市町から雇用を行い、地域貢献にも取り組んでいます。

今後は、生産力の向上を図りながら従業員の福利厚生と職場環境も充実させ、地域経済活性化と雇用創出の場となる、自分たちが誇れる主力工場拠点を目指していきます。



株式会社 サクラクレパス 鹿児島工場
久木山 元成 代表取締役社長



ミズグチクレープ

〒893-0023
鹿屋市笠之原町 3577-5
店休日 月・木曜日(SNSで要確認)
営業時間 12:00 ~ 18:00
※路上駐車はご遠慮ください
Instagram



おすすすめスポット

私は甘いものに目がなく、SNSでスイーツのお店を探しているときに見つけたのが「ミズグチクレープ」さんです。

オーガニック小麦粉や国産の全粒粉を使用するなど食材にもこだわっており、その時々で期間限定メニューが出されるので、いつもSNSで確認して限定商品を食べています。また、近くにひまわり公園があるので家族と一緒に買って公園で食べられるのもいいですね。

お店の雰囲気もよく、隠れ家的なお店なのでオススメです。

生産管理課
土田 万梨子 さん
(32歳/入社5年目)

札元1丁目在住。夫と2歳になる娘の3人暮らし。多趣味だが、今は子育てに一生懸命。娘の日々の成長が楽しみで、早く一緒に料理などをしてほしいと話す。



「私の仕事」

生産計画の立案や日々の作業進捗を管理することが私の担当業務で、現場の人たちが効率よくスムーズに作業できるように生産計画を立てることを心掛けています。生産計画に大きな乱れがなく製品が無事に出荷されたときが、ホッとすると同時にうれしい瞬間です。

現在は育児のために短時間勤務をしています。また、産休・育児も取得できたのでとても助かっています。

今後は限られた時間での作業量を増やせるように業務の効率化を図りながら、知識を増やして幅広い対応ができるように頑張りたいです。